

一第2部一 基調講演

「すべての学部が地域の役に立つために」

■ 講師：山内 太地氏（一般社団法人 大学イノベーション研究所 所長・大学研究家）

（講演本編）

みなさまこんにちは。日本には全部で800近い大学がありますが、私は16年かけて全部に行ってきました。誰も褒めてくれませんが、私、毎年10校ぐらいずつ大学が認可されていくと北海道や沖縄に行かなくちゃいけないという、とても苦しい生活をしております。特に1990年代から250校ほど増えてしまい、非常に苦しいのですが、こういった経験を踏まえて全国の受験生や高校生、高校の先生あるいは保護者の方に対して、どこの大学がいいよとか、ユニークな研究や教育があるよとかをお話ししております。高知大学もこれで4度目の訪問で、医学部や農学部も行きました。

ということを生業にしております、大学を紹介する本を書いたりもしております。最近はこの経験を活かし、3～4校の私立大学の立て直しのお手伝いをしております。

ご存知の通り、私立大学の4割が赤字経営ですので、仕事があるのがありがたいような悲しいような、という状況ですけれども、日本全国、年間約150高校を回っております、高校生に対して大学の進路指導や、大学事情を話しています。今日、皆様から高知大学のここがいいよという話をたっぷり聞き、明日からの高校での講演に活かしたいと思いますのでどんどんPRを

お願いいたします。

こうやって、全国を回っていると、他の県で、大学と地域の連携、地域おこし、こんなこと頑張っている、という話を山のように聞きますが、必ずしも全てが成功しているとは残念ながら言えません。ですので、必ずしも成功していない事例も含めまして、皆様がどういった形で、高知大学、そして高知県の発展に力を尽くしていただくと良いのかというあたりを話して、お役に立てればと思っています。

本日は、大学の授業と同じ90分を頂戴していますが、私のようなものが90分喋ると皆さま寝てしまいますので、だいたい1時間ぐらいで終わらせていただき、残った時間は先程と同じように皆様で話しをして、どんどん質問をいただきたいと思います。

これは普段、高校生向けに使っているスライドですが、ご存じの通り少子高齢化でございますので、日本の人口がどんどん減っていきます。大学生がせっかくいらっしゃるので、若者にとって何が深刻化かと言いますと、人口が減るということは全ての産業で今日よりも明日の方がお客さんの数が少ないということなのです。新しく建つ家の数や、新しく売れる自動車の数というのは、皆さん大学生が生まれてから一貫して落ちていきます。

全国でそうなのだから高齢化が進む高知は、なお深刻ですね。こういった状況の中、今の大学生が生まれてから、約15～6年の間に日本の会社員の全体の平均年収が5～60万円も落ちています。びっくりです。

つい先日、大変気の毒なバスの事故がありました。あのバスの運転手さんの給料、2001年と2013年でなんと年収が130万円落ちています。日本全体が貧乏になっているのです。あれは単なる運転ミスの交通事故じゃなくて、貧困が起こした事故です。

こういう状況の中、ほとんどの職業の年収が減っているという大変過酷な状況です。日本の会社員、いわゆる一般的なサラリーマン全体の平均年収って約400万円なのですね。ところが、私が取材で大学生に話を聞くと、よくこんなこという女子大生がいます。

「私、年収1000万円の男性と結婚して専業主婦になりたい。」

これを寝言といいます。あくまでも一般論ですけども、専業主婦というのは、現在、夫の年収が600万円以上ないと維持できないそうです。あくまでも一般論にそう言われている。

では、ここでみなさんに問題です。みなさまは全員女子大生です。

「私、年収600万円以上の男性と結婚して専業主婦になりたいわ。」

と思っています。あなたを専業主婦にしてくれる年収600万円以上の男性で、25歳から34歳の結婚適齢期の独身男性で年収600万円以上は何%でしょうか？1分間お考えください。

ありがとうございます。統計によってはデータが若干前後しますが、一般的には3%と言われています。ですので、女子学生の皆さん、どうしても専業主婦になりたい場合は女子の上位3.5%に入ってください。本当に。というわけで、ミス高知大になるしかない状況です。親の時代であったら、専業主婦という働き方は割と普通だったかもしれませんが、今の若い方が、結婚、出産をする時代には、結婚や出産を期に仕事を辞めて夫に養ってもらおうというのは大変難しいので

すね。何故ならば、夫の給料が下がっているからです。基本的には専業主婦が女性の生き方だと思わない方がよくて、一生を通じて自分の仕事や専門分野というものをしっかり確立していった方が安全です。

ですので、大学生の皆さん。今日から見てはいけないテレビアニメが四つ。ドラえもん、サザエさん、クレヨンしんちゃん、ちびまるこちゃん禁止。なぜならば、全部専業主婦。この四つのアニメを見てはいけません。これは大学生の皆さんが将来創る家族の姿ではないのです。あれは時代劇、チャンバラです。日本の景気が良かった人口が増えていく時代のお話です。一番新しいのはクレヨンしんちゃんです。いつ始まりましたか？1990年です。今の大学生のみなさんは生まれていません。

1990年、何があったか？先生方はよくご存じのはずです。そう、バブルです。クレヨンしんちゃんはバブルが前提のアニメなのです。日本の景気が良かった時代です。だから、クレヨンしんちゃんのお父さん野原ひろしの設定年収は600万円です。1990年の段階では一般家庭。今は富裕層なのですね。だからクレヨンしんちゃんのお父さん、野原ひろしは秋田県出身で、高卒で会社員であるにもかかわらず、埼玉県春日部市で一軒家が建てられる。専業主婦のみさえ、子供2人、ペット、自動車。あんなことは今ではもうできないですね。

サザエさんは世田谷区です。普通の人は住めません。サザエさんの記念館って桜新町というところにあるのですが、東京に行かれたらぜひ行ってください。億ションばかり建っている超高級住宅街ですから。ドラえもんは練馬区です。これも都会のど真ん中であって、一軒家を持っているっていうのは相当なお金持ちなのですね。

今の若い方達はこういった厳しい時代を生きていらっしゃる。

では、こうした厳しい時代に若い人達が生き残るためにどうしたらいいかっていうと、発想の転換です。世の中には2種類の人間しかいないと私は考えています。人を使う人と、人に使われる人です。これからの

高校生、大学生の皆さんは人に使われる人になってはいけません。「何を言っているのだ、この人は。会社に入ったら社長に使われるじゃないか。」確かにその通りです。でも大事なことは、「世の中は社長、政治家、お金持ち、偉い人が何とかしてくれるのだ。自分達は下っ端だから、言われた通り働いていればいいんだ」という気持ちは、今すぐ捨てた方がよいと思います。なぜならば、自分の頭で考えて行動できるかどうかで、社会で重要な仕事に就けるかどうかが決まるからです。これは高知大学の方であれば、もう学生さんはみなさんご存じだと思います。

つまり、賃金社員で同じ会社に入った人達でも、社会的に成功する人と、うまく行かない人がいますね。その差はどこでつくのかというと、私が全国の高校を取材する限り、能動的な学修習慣がついたかどうかの勝負です。つまり、親が勉強しろと言うから渋々やる、先生が宿題を出すからやるっていうのは本当の意味での勉強ではありません。もちろん、宿題はやるべきです。

でも、そうではなくて自分が勉強したいから勉強をするのです。「自分がやりたいからやるんだ。言われてやるんじゃない」という気持ちを高校時代に持っていないと、おそらくは、まず高知大学に入れない。受験に関しては、ですので、能動的な学修習慣というのは高知大学に入っている人には、充分ついていると僕は思います。

地域貢献とか、地域協働、地域連携というのを考えた時に問題なのは、高知大学に入れない学力層の大多数の高知県の若者のことまでを考えないといけないということです。この能動的な学修習慣というのは、当然、高校生にとっては受験勉強でいいのですが、大学生となってくるとまた違ってきます。

ですので、皆さんも、もうよくご存じのアクティブラーニングであったり、PBL、先生方の授業法の工夫の問題にももちろん関係しますし、地域と連携していただくのも大変結構です。

なぜならば、受験勉強を頑張っているいい大学に入れればいいというのが一つのゴールだった高校と違いまし

て、大学での勉強というのは、自分で研究課題を見つけ、情報を集めて、論文を書いて、発表する。それが、大学生ですね。もちろん、語学や国際性はいまどき普通で、プラスこの能力を付けないといけない。

こういったことを受けて、受験生にはよく、そういうことができる質の高い教育が受けられる大学を選んで欲しいと話します。もちろん、これは主に文系を想定しています。自然科学系ですと文系の学生よりはきっちりやっている傾向があるのですが、文系で特に問題なのは、大都市にあるマンモス私立大学です。高知大学は、私はとても良いと思うのですが、ブランド力や知名度が高い東京や大阪の大きい大学というのは非常に学生数が多い。2万人、3万人って学生がいますね。

しかもST比（専任教員一人当たりの学生数）がものすごく多いのです。おそらく高知大学だと1対10ぐらいのはずです。1人の教員に10人の学生。これがW大学やK大学D大学だと文系は50人、60人になってしまうのです。1人の大学教員が50人の学生を見なくちゃいけない。学費は2倍。ということで、コストパフォーマンス10分の1という、マンモス私学の状況です。だから世界ランキングとかやると早稲田800位とかになっちゃいますね。

そして、そういう状況の中、大学で学んで、できればチームワークやリーダーシップや問題発見・解決能力といったような社会で必要とされる力を付けていたきたいというふうに考えております。

先程、学生さんから発表があってやはり感じたのは、大学時代に挫折したり、苦労したり、失敗したりという経験をした方が良い。こういう点で都会の大学よりも高知大学はとても優れています。今日、高知大学に早めに来て色々なチラシとかパンフレットを見ていたのですが、高知大学では、大体47%ぐらいの学生に恋人がいる。大変ラブラブな大学です。ところが、これ東京のT大学ですと、なんと男子の8割が彼女いないという、かなりの東京砂漠でございまして、やはりそういった点で色々なチャレンジをしたり、失敗をしたりする経験。恋愛においてもあるという点ではめぐ

まれている環境なのですね。実は高知というのは。

また、ちゃんと現実的な話に戻ってくるのですけれども、もちろん今日は地域協働学部さんだけではなく、全学に関する話をしますが、まずは地域というものが学問体系として登場してきた流れについて、ちょっとおさらいをさせてください。

確かに高知大学の地域協働学部はオンリーワンです。ですが、実は地域なんとか学科みたいなものは、もう過去20年くらい、あちらこちらの国立大学にポコポコ生まれているのですね。これがいわば誤解のもとといますか、地域学についてはそういう大学が既にたくさんあるのだというのを、他県の高校の先生を含めた受験業界が勝手に思っています。じゃあ我々はよそとは違ういい教育をしているのだという点に関しては、先程、上田先生ともお話ししましたし、高知大学の色々な事情を調べたので、少なくとも私は理解していますけれど、受験市場が正確に理解しないとイケません。そしてそれを阻むのが、他の大学の地域系の学部学科です。

何故かという、その内容がちょっとみなさんと違うのですね。国から言われてゼロ免を潰しなさいということで、Y大学なんかでは地域教育文化学部といって、いわば地域協働学部と教育学部が合体していて、ゼロ免の要素をたっぷり残しているのですが、名前変えたから許してあげようみたいな雰囲気学部なのです。

あるいは、G大学が一番端的で地域科学部と名乗っていてですね、地域について熱心にやっているように見えるのですが、ちゃんとカリキュラムを見てみると、実際にはこのG大学の地域科学部がやっていることってというのは他大学でいうところの文学部と理学部がくっついているのですね。

あんまりそのユニークな変わったことをやっているわけじゃない。実際には人文、社会、自然、これはもうゼロ免とか、いわゆる一般教養の先生をかき集めてG大学は作ってしまして、他大学でいうところの文、法、経済、あと理学部の代わり。そう、G大学には全部ありません。G大学は教育と工、農、医学部しかな

かったのですね。つまり、文、経済、法、理の要素がないので、地域科学部にそういう先生が少しずつ集まっている。つまり地域のために何かやる学部、あるいは地域と組んだ学部、という以前の問題として、文、法、経済、理でしかない。

だからダメだと一概に全否定はしません。「地域なんとか学部ってどうせこういうもんなんですよ？」というふうに、少なくとも多くの高校生はそうみんな思っている。この誤解を高知県としては解かないといけないわけですね。

実は地域なんとか学部というのは、公立大学や私立大学にも結構できつつあります。これの実態を暴くと、やはりそのすごく崇高な理念とか、ユニークなコンセプトで作っているとは言い難い大学が混じってしまっておりまして、A大学だと、経営経済学部地域みらい学科というのがありますが、これははっきりいって単なる法学部。法律学科ですね。要は、経済経営系学部の短科大なのですが、やはり公務員を出したいので、政治とか法とか行政っていうのが欲しいわけです。でも学部を作るだけの体力がない。ということで、実際にはそういう学科です。T大学の地域政策学部もそうです。これも実態は法学部が欲しい訳ですね。F大なんかもそうです。もちろんだから中身が悪い訳じゃないですよ。

N大学に国際地域学部というのがありまして、そこそこ人気なのですが、これも中を見ると、国際社会、比較文化、東アジアということで、地域環境。これは、高知大でいうと、人文社会科学部なんですね。地域じゃないのです。正直なところ。地域と組んで何かをやる、地域から学ぶっていうことに関してはあんまりやってない。

ただし、アジア地域などに詳しい教員が多いので、N大学にとっての地域っていうのは、韓国や中国のことなのです。でもこれ受験生わからないですよ、高知大学との違いが。また、N大学が来年、地域創造学部を作るのですが、中の学科が経済と法律という、突っ込みどころ満載の状況です。

私立に関しては地域なんとかっていう大学はまだそ

れほどの勢力にはなっていませんので、あんまり気にしなくてかまいません。でも残念ながらこの私立でたくさん出来つつある地域なんとか学部学科は、私立大学業界では偏差値の低い大学も多くて、あまり評価が高くありません。彼らが皆さまの足を引っ張らないと良いのですが、というのが私の心配です。

こうした流れの中で、私が危惧しているのが、あと3ヵ月もしますと、国立大学の地域なんとか学部があると6校増えるという状況です。彼ら一つ一つが高知大学と同じようなコンセプトでやっているかというところ全然違うのです。U大学に至っては地域デザイン科学部の中に土木学科があり、建築学科があります。土木や建築は別に工学部でいいのではないかっていうのが僕の意見なのですけれども……。あとは、お隣にできる社会共創学部ですね。構想段階では、地域共創学部でした。そして確か今でも英語名称の中にはリージョナルって入っており困ったものです。他には、S大学の地域創造学環、N大学の創生学舎、学部ではありませんが、こういった組織もよく見るとスポーツや美術、家政学の先生が入っておりまして、ゼロ免収容所なのです。何か新しいことを生み出すという点に関して、これら皆さまのライバル大学がしっかりした学部をちゃんと作っていらっしゃるかどうかといったら不安です。もちろん、それぞれの学校に私も行けば皆さん崇高なおっしゃるかと思うのですけれども。「地域なんとか学ってというのは胡散臭い学問分野なんだ。地域貢献というのは国立大学の中でもトップクラスでない大学にばかりあるものなんだ」という、誤った認識、あるいは何かこう差別偏見的な認識を全国の高校の先生が持っただけかという点で、すごく危険な状況なんですね。

高知大学の地域協働学部に関しては、皆さま内部の方はよくご存じだと思うので私が解説することはありません。ただ、コーディネーターは作れるのですけれども、実際の生産者とかクリエイターになれるかが鍵なのかな、という気はするのです。もちろんコーディネーターも大切です。ただ、実際に何かをこう、仕事を生み出すっていう人材が、高知大学から出

て欲しい、起業できる人が出てきて欲しいと私は思っています。

問題は、全然違う教育内容でやっているのに、受験業界からは一括りにされて、同じ仲間だと思われることが最も危険なのですね。向こうは向こうで頑張っているのは認めます。でもやっていることは違うのです。おそらく、それぞれの大学の先生方はよくわかっているはずなのです。うちはこういうことがいい、違うよ、と。しかし、残念ながらそれが高校生に伝わりきっていない。ズレて伝わる恐れがある。もちろん地域協働学部一期生の皆さんには的確に伝わってきていると私は信じますけれども、多くの人が誤解をしている状態で、「この変な地域学部ブームっていうのは痛々しいよね」という空気が作られていくことの恐ろしさを感じております。

そうなった時に、このブームになっている地域なんとか学部というものに対して、既存の職業観と比べて時に、劣っているとは申しませんが、優れるかどうかというのは、皆さまのメッセージとは違う意識を持っている高校側は誤って捉える可能性があります。

「で、結局あれでしょ？ 国からゼロ免潰せって言われたから作ったんでしょ？ 何の専門性もないんでしょ？ 別に教養教育もすごくないんでしょ？ 法学部の代わりなんでしょ？ 法学部ない国公立が多いから」という空気が今、高校で生まれつつあるのを僕はとても心配しています。そして、よそがいっぱい作っちゃったことによって、やはり高知大学の独自性が全国の受験生に伝わりきっていない、という現実がある。なので、これは主に地域協働部に関してなのですが、やはり高い専門性で、地域に根づいていかないと、ゼロ免の二の舞か単なる文系学部扱いで、長い目でみて、更なる再編に巻き込まれないかなというのが心配です。

これはM大学ですけれども、大学院に地域イノベーション学研究科というのがあります。名前だけ聞くと何をやっているかわかりません。ありがちなところで行政系かなと私は思っていたのです。ところがこの地域イノベーション学研究科はコテコテに工学とバイ

オだったのですよ。だから半導体とかデバイスとかやっていて、工業で産業を興して仕事を生み出そうっていう大学院なのですね。「あ、これはすごいぞ」と。あとはスポーツと農学系が入っています。つまり、三重県の中小企業と組んで、実際にちゃんと仕事を生み出す大学院です。一方、文系の受験生や大学生が、従来のこういったものにとらわれがちになるものとして、これはS大学のパンフレットですが、公務員と銀行の宣伝ばかりしているのですね。これこそ、文系のエリートだ。確かにそうなのですが、それだけでいいのかなというところを若干心配しております。

観光で高知県自体には私は何度も来たことがあって素晴らしい観光地だというふうに魅力を感じているのですが、今回ご縁をいただいたので、実際に高知県が経済的にどうなのかということ調べた結果、正直な所、非常に厳しい。

もちろん、高知にいらっしゃる皆さんはよくご存じだとは思いますが。改めて振り返りますと、県民所得が全国最低です。ただ、安いだけじゃなくて、住んでいる人もあんまり幸せじゃないっていうランキングがある。こんなのはデータの取り方によって変わると思うのですけれども。他にも、びっくりしたのは製造品の出荷額が全国46位で45位の鳥取の半分というデータです。鳥取って聞いたときに、何か工場があって製造しているというイメージはほぼゼロで、砂丘と梨しかイメージが無い鳥取。あと、名探偵コナンぐらい。その半分というこの戦闘力の低さ。で、高卒就職者は半分以上が県外へ出ていってしまうという。これは県庁が出しているデータで、「子供を産めない最大の理由は経済的理由である」とはっきり書かれていまして、経済的に非常に厳しい環境にあるというのが分かりました。もちろんこれは私が言うまでもなく、高知県の若者は知っているから、出ていってしまうわけですね。景色が綺麗というだけでは居てくれないというのが高知県の状況ということがわかりまして、地域で何かをやるってことに全学体制でやるにあたっては、やはり皆様に非常に苦しい現状をよく理解をした上で、では、我々の部署はどうしようというふうに考えていかない

といけないのかなと。

なかでも、地方の活性化ということに関心をもちまして、私も全国の町おこしの事例をたくさん取材したのですが、私の中でずーっと引っかかっていたのがあるんです。それはもうテレビで散々有名になっています、隠岐の島の海士町、あるいは葉っぱビジネスで有名な徳島県の上勝町、ITの関係者が移住してすごく話題の神山町、あとイケダハヤトさんが移住した、高知県の本山町といったところ。本山町はともかく、神山、上勝、海士町に関してはあたかも、町おこし村おこしの大成功例のようにPRされていますけど、何か引っかかっていたのです。別に彼らの努力を否定はしていません。でもこれは本当に大成功なのかな？ というのが、すごく引っかかっていたのですね。ようやく私の中で謎が解けました。

それが、普通交付税不交付団体かどうかであることと、つまり財政力指数です。国から税金をもらわないと自治体が運営できない、はっきり言ってしまうと貧しい自治体かどうかといった時に、交付税をもらわなくてもやってけるお金がある自治体というのは日本全国にわずか59市町村しかない。しかもわが愛知県になると14もある。威張るつもりはありません。これはほとんどトヨタさまです。

ほとんど、見ての通り工業なのですね。工場があるから財政が潤っている。そして、中四国、ゼロです。中四国には財政が安定した自治体の一つもない。つまり、成功とされている村は何なのだと。財政力指数というのは1.0以上が不交付なのですが、名古屋で最も裕福な日本一お金がある村、愛知県飛鳥村は2.13、ここは200社の企業から年間33億の税収がある。小学生の修学旅行は全員海外です。こんな極端な町は参考になりません。

高知県は高知市ですら0.56なのです。1.0なきゃいけないのに。そして、さっきの成功例として出した徳島県上山町から海士町にいたっては0.09という中央政府から税金を貰わないと存続できない。いくらIターンの人が住んでいるとか、地域で若者が頑張っているって言っても地域で財政が自立できてないという点

において、これらの町を町おこしの成功例とはまだ言えないというのが私の本音です。財政が自立していないと生き残れない。何かに似ていますね。はい、国立大学です。国立大学はご存じの通り、運営費交付金がどんどんどんどん減らされて、今後もどんどん減っていきます。真綿で首を絞められるように国立大学が厳しい環境になっているのは先生方もよくご存じの通りで、学生にとっても決して他人事ではありません。国全体が貧しくなっていくと、大学教育にお金が出せなくなってくるのですね。

ここで重要なのが財政の自立です。つまり、お金のある自治体が財政的に自立しているように、高知大学も国からの予算が減る中で、本来は財政的に自立を目指すべきなのです。そうしなければ、国が言う改革を言われた通りやります、みたいな、非常に苦しい環境になります。財政が自立していないと、本当の自由は手に入りません。ここで、財政的に自立している村があります。山梨県忍野村です。これは愛知県のこれらの町のようにトヨタの工場がいっぱいあって、お金がウハウハではないのです。忍野村は富士山麓にあります、本当に小さな村で、そんなに裕福に見えません。そして、隣の山中湖村は別荘があり財政が裕福なのです。この忍野村が何と1.11という財政力指数を誇ってしましてお金がある。なぜこの町は豊かなのでしょうか。観光ではないのですね。あえて読めない小さな字で書きました。それは工作機械用 CNC 装置で世界首位のファナックというメーカーの本社があるからです。単に工場作ってもダメなのです。実は会社の本社があって、法人税を払ってくれて税金があると自治体はお金が確保できる。

ですので、ストレートに言うと、高知県の過疎で悩んでいる困った村みたいな所には製造業の工場がジャンジャン来る。そして、本社が来る。そんな急にはできない、夢物語のようなことですが、そうすると財政力が回復して、人口も増えるということです。

もちろん絶対にそうしろとか、これが正解というつもりはありません。私にご依頼をいただいて調べた結果、こういう実態がある、と感じている。ですので、

本当は自治体毎に法人税率を変えられるといいのですよ。うちの町は法人税思いっきり下げますから、ジャンジャン工場来てね、みたいなことが、残念ながら自治体は現在できません。それは自治体が結局、財政が自立していないから国に縛られてしまうのですね。そして大学も同じ。この自治体も大学も財政の自立を目指すというところにまさに、地域と区分というところの出口があるのかなと考えています。

さて、高知大をはじめとする地方私大の生き残りのキーワードとして、非常に大事な言葉があります。これを私は「二番手高校の生徒の獲得」だと言っているのですが、高校生を大きく3つに分けます。一番手高校というのは東大何名とか言っている県内トップ高校です。こういうところは、それこそ、東大京大などに進学させないといけないので、場合によっては、高知大学にもあまり来てくれないかもしれません。そして三番手の高校というのは、就職であるとか、専門学校や短大も多いような高校さんで、大学進学イコール私立に推薦で入る。問題は二番手高校なのです、この二番手の高校というのはだいたい国公立には30人から100人ぐらいは入れる。みんな国公立大学進学を最初は希望するのですが、現実問題として、学力的なものもあって、なかなか受からない。でも、彼らは進学校としてのプライドは高いのです。この二番手の高校の受験生を獲得する、選ばれる大学になるということが、一つのキーワードになります。

ちなみにスポーツが強い大きな私立高校の場合は1から3の要素が全部あります。東大クラスから、スポーツ命までいるという状況なのですが、この二番手の高校生の獲得がなぜ重要なのかというと、高知県の場合、国公立大学が3校あって、四年制の私立が一つもありません。つまり、二番手高校の子たちが高知県内に残って、大学に進学する選択肢がゼロ。愛媛県はいいですよ、M大学がありますので。なので、困ったことだなど。

二番手高校の文系の子たちが行きたい進路っていうのがはっきりしてしまっていて、公務員か教員か銀行か製造業か地元のエリート企業。地域のエリートですね。

で、この地域のエリートのニーズを的確に汲んでいるのが、K大です。何故ならば、法学部を出ると、40%も公務員になる。経済学部を出ると33%も金融に行くというすごい数字です。高知大学の文系ではこうはいきません。銀行や公務員だけが偉いわけではない。もちろんわかっています。しかし、親や高校の先生などから影響を受けて、文系イコール銀行か公務員か製造業にいかないとエリートじゃないみたいな価値観というのが地方の高校生にすごく広がっているなというふうに私は考えています。教員は公務員に含まれます。

今の高校生の皆さんには3種類の未来があります。まず、一番手高校の子たちは親が考える勝ち組を目指します。文系ですと地方公務員、教員、銀行、製造業などの地元優良企業。理系ですと、メーカーの研究開発、技術開発や研究職、公務員、教員と。実際には二番手高校の子たちは何になるのかというと、だいたい私立大を卒業して、ほとんどが、営業、接客、サービス業です。営業っていうのを大学生はなぜかすごく嫌うのですけれども、実際には卸、小売り、サービス業に大半が行く。別に私は職業を差別しませんが、気をつけないと、この業界にはブラック企業が多いです。

三番目が高卒層の皆さんなのですが、三番手の高校は、高卒で働く方や、専門学校を卒業して、小規模な家業を継いだり、自動車整備士や美容師といったような専門職に就く。でも、もうお気づきですね、高知の場合、一番手から三番手までみんな県外流出するので。県内にそれぞれの仕事があるにたくさん無いのですね。これが、正直都市部にある他県との大きな違いです。愛知県、名古屋はトップから下の方まで誰も愛知県から出て行きません。という全然違う状況なのです、同じ国なのに。さらに、全員が国公立大学に入れませんので、二番手の子っていうのは都会の私立に行きますね。都会の私立の魅力ってなんでしょ？それはやはり、地元に残っては就職できないような職に就ける。でも、問題があります。例えばこのD大学。D大学はなんと文系の学生男子の27.4%が製造業。びっくりですね。22.5%が金融、16.7%が公務員という先程のエリートは、製造業か金融か公務員だっ

ていうのを地で行っているのです。全然、他の産業に行かないという。そして女子にいたっては、なんと3割金融という、英米文学やろうが、法律やろうが、みんな金融業という。金融、製造業、公務員、もうコテコテでございます。理系は55.1%メーカーに行く、これは普通ですね。こういうふうになれる。ただ、高知県に居たらこういうふうになれないけど、都会に出て行ったらこうなるのだと考えてしまうと、二番手の子たちは県外に流出してしまう。やはり、高知大には受からないけど、私立大学に入る学力はあるっていう二番手高校の子たちの受け皿が、県内に必要だと個人的には思います。そうは言っても私立大学は作れない。なので、どうしようというのが、正直なところ、私から皆様への宿題です。どうしようってことですね。県全体の発展を考えた時には、高知大学に入れた子だけではない、出て行っちゃう地域の若者に興味を持たないといけないですね。町おこしをやる人たちっていうのはいわば残っている人なのですよ。

地域に残らざるを得ない、地域を出て行きたくない、他県から高知に来た、高知が大好きだっていう人はマイノリティーです。高知を出て行っちゃう大多数の高校生に、なんらかの形で、アプローチをする必要がある。本当に高知県の発展を願うなら。私は岐阜県ですけど、岐阜に戻る気は全然ありません。岐阜県中津川市には全然仕事がないからです。

そして、もう一点、出て行ってしまふ高校生の心に重くのしかかっているのは、地元に戻りたくないということです。荒れる成人式ってありますよね。ヤンキーの方たちが荒れる成人式。あの子たちに会いたくない20歳がいるのですよ。せっかく俺、大阪のいい大学に行ったのに、成人式に戻ってきたら、中学や高校で嫌だったあいつがピンク色の羽織袴を着ている。実は地域のために何かしたくないマジョリティーがいるのです。彼らのハートに火をつけないといけない、と私は考えています。

何故ならば、この層こそが本当の地域を支えるはずだからです。さらに都会の私立大学では、基礎学力によって、知識産業に行けるかどうかが決まる。えげつ

ないデータですが、東京なのでみなさまに直接影響ないということで、露骨に紹介しますが、H大学の法学部とA大学の法学部を比べるとですね、同じ法学部なのに、就職が全然違うのですね、H大学ですと、2割近く公務員、そして金融2割、製造業13.3%というように、さっきのD大学と同じ手堅い仕事にたくさん行けます。A大学ですと、卸、小売り、サービスに大量に行きます。銀行はH大学の半分しかいない。製造業もものすごく少ない。メーカーはA大学の文系人材はそんなにいないのですね。そして、公務員の比率こそ同じですが、これは自治体で働いているか、警察とか消防が多いかの違いがあります。全然違うのですね。こうなってしまうと、都会のいい大学に行くことによって、少しでも高い社会階層につけるっていう高校生の気持ちっていうのはどんどん強まっています。いまどき、大学は偏差値じゃないよ、とか、何でも都会じゃないよっていうのは、そう思っている人だけが言っていることで、まだ、ここに囚われている、気持ち的に支配されているというのが、高校の先生や親の現状であり、地域のために何かやろうっていう人は、残念ながら少数派です。ただし、これは私が他の地方を見て言っていることであって、高知がそうだというつもりはございません。裏を取っていませんので。

ここで問題なのが、先程の文系の大学に行く子たちがみんな、公務員や、教員や、銀行やインフラといったような、安定した仕事を目指しているということです。これらの仕事が悪いというわけではないです。でも、文系がみんな安定した仕事に行くというのは本当は困るのです。なぜならば、世の中には2種類の仕事があります。世界を変える仕事と社会を維持する仕事です。世界を変える仕事というのは、謎を解く仕事ですね。イノベーションを起こすのです。そして、社会を維持する仕事っていうのは、謎は誰かが解いてくれます。理系の場合ですと、世界を変えるのが研究です。もちろん文系も研究で世界を変えていただきたいのですが。社会を維持するのが臨床で、わかりやすいのはお医者さんです。町のお医者さんが「あ、おじいちゃ

ん怪我していますね」「治しますね」「お薬出しますね」というのは臨床医ですね。これに対してiPS細胞の山中先生のように、ノーベル賞を取って、世界の医療に革命を起こすんだっていうのが研究です。研究医ですね。

自動車が好きだっていう高校生がいたとして、自動車整備士になりたいっていうのが臨床です。もっとカッコいい自動車を作りたい。安全な自動車を作りたいからメーカーで研究開発をやろうっていうのが研究です。なので、本来文系においても社会を維持する仕事として、公務員や教員や銀行があるのと同時に、理系の研究に値するように文系の仕事に置いて世界を変えるようなイノベーションを起こすエリートが必要なのです。

楽天とかユニクロとかがそうだと思います。GoogleやYahoo!など。文系の学生さんの能力、理系も同じなのですが、安定した方にばかりみんないてしまいますね。さっきのデータのK大学、D大学。そうではなくて、革新的なビジネスを興してくださいということです。なぜならば安定路線の人達は新しい産業や仕事や雇用やお金を生まないのです。残念ながら、ほとんど。文系で革新的なビジネスを興すっていうのを期待したいというところがあります。

なので、すべての学部が地域の役に立つために、ぜひ検討していただきたいのはこの3つです。産業の創出、人口流入、財政の健全化です。こうなるために地域で連携して欲しいのです。

地域連携、地域貢献、地域協働、どれも素晴らしいです。でも、ゴールはどこなのかって時に、これは私の意見としてはこの3つがゴールである。大学側がどう思っているかはともかく、地域の実情としては人口が増えて欲しい、仕事が欲しい、嫁が欲しいなどです。あるいは子供が産める環境が欲しいといったように、人口がどんどん減って行って衰退していく中山間とか、高知市でも他人事ではない。明らかに皆様が地域と関わることによって「高知が良くなったよね」「目に見えて数字が改善しましたね」ってところを地域は期待しているのではないかと思うのです。「お祭りを

やって楽しかったです」だけではダメなのです。お祭りをやっていいのですよ。しかし、具体的な結果を出さないといけない。なぜならば、自治体も大学も財政の健全がゴールだからです。

正直なところ、反感を買うのは百も承知なのですが、先生方は税金をもらって学生を教えるから、自分で外部資金を獲得し、資金提供先に利益をもたらす研究が求められます。異論があるのは重々承知です。私自身はジャーナリストですから、ニュートラルな立場でいられます。でも今みなさまは国からはこれを強制されつつある。本当にシビアな話をすると軍事研究です。いくつかの大学は、もう外部資金を獲得して研究を維持するために軍事研究をやっているのですね。今ここで、その是非は問いません。しかし、やっているところはお金が欲しいのだからってということですね。是非は問いません。そして、本来こうした産業を創出するために、1997年に作られたK大学、あれは地域にハイテク産業を作って、これらの流れを興すはずでした。実際には県内に就職するのは8%。素晴らしい工学教育やっているのですが、結局、都会の大手メーカーに人を送り込んでいるだけです。県内に産業作ってくださいますよということが、このデータからわかります。

ただし、文系の学部は31%が高知県内に就職しています。しかし、彼らが新しい産業を興せるかって言うともまだ何とも言えません。なので、それぞれの立場があります。それぞれの学部の皆さまにどうしていただきたいかという、先程の産業創出、人口流入、財政健全化の3つを実現するために自分の学問分野がどう役に立つのかということを考えていただきたいです。具体的な結果が出ないのに、地域おこしのことをやっているだけだと、ほとんどの大学は疲弊していきます。九州の私立大学の教授にはこう言われまして、商学部の先生ですが、「山内さん、もう俺、商店街の活性化したくないよ。」理由は二つ。学生にとって、商店街の活性化と、商学部の教育内容がリンクしていない。もう一つは、商店街を活性化して、就職先はイオンっていう。当然ですよ。[ライバルじゃねえか。何だったんだ]みたいな。商店街の活性化に関わって、

流通に興味を持ったので、イオンに入りますという。イオンが悪い訳じゃないのですよ。「何だこれは」ということで。それぞれのみなさんのお立場から考えていただきたい。こういう時に正直な所、高知大学にそういう工場とか製造業ってところに結びつく工学部がないってのはいかにも残念です。無い物ねだりなのですが、やはり、工場を誘致するってことをやりづらい。でも、先程の財政力指数を見ていただく限り、やはり大変残念なことに、いま現在の正解は製造業しかありません。工場を誘致して、財政的に回復して、雇用を生んで外部から人が来てくれる。愛知県というのは、地域おこしとか地域活性化とか、何にもやらないのにどんどん人口が増えます。仕事があるからです。

だから愛知がよいと言うつもりはありません。正直、愛知県は観光地としては物足りないです。ですので、色々ありますが、あの人文社会科学部、他で言うところの経済が入っておりますが、いわゆる文学部ですよ。今までは、それこそ東大京大の様に学問の世界だけにいられたのですが、地域と関わっていく、あるいは自分の財源というものを考えていかないといけないといった時に、学んでいる内容、教えている内容、研究している内容が、どう高知県の発展に関わるのか。出ていってしまう二番手高校の子たちとの高大連携が必要になってくると思います。歴史が好きとか文学が好きという子は必ず高校に一定数いますので。

教育学部は先生を作っていただくとして、理工ですね。せっかく理から理工になるのであれば「今まで以上にちゃんと産業界と連携して仕事をくれるんですよ？」というのがやはり高知県民の本音なんじゃないのかなと思います。ですので、たとえば、数学、物理、生物というのは、今まででしたら具体的に製造業や産業界ってところと結びつかなかったと思うのですが、できるだけ組んでいただき、自分がやっている数学が高知県の雇用を生むために、何ができるのだろう、と考えていただきたい。残念ながら、私もすぐに答えは出ませんが、そういうことを考えていかないといけないのかなという気がします。農学部の場合も扱っている

のは高知県の色々な領域があります。で、これら学問を繋ぐものとして、地域協働学部のみなさんには、やはり、コーディネーター的な役割を期待したい。

一方で、具体的に何か製品を作るってところまで落とし込める、そういう工学的な専門性が無いことを踏まえても、やはり、人が増えるために、どういった産業を創ればいいのかを考えると、怖いのはやはり、よその県にできる地域なんとか学部も含め、10年、20年先に振り返ったら、「あの改革は失敗だったよね」という、大変に恐ろしい未来が起きるといふのをとても危惧しています。

なぜならば、国や文科省は何度も同じ失敗をしているからです。90年代だったら大綱化ですね。一般教養を全部潰してしまうという、何かプラスの影響はあったのかというと、現時点でまだわからない。やってみないとわからないじゃないかという人が多いのですが、私もこの仕事を20年くらいやっていて、何かチャレンジのようなことやったのだけど、うまくいかなかったという事例をたくさん見えています。ですので、そこは本当に慎重になって、みなさんにとって面白い話でもせざるを得ません。やはり10年、20年先に、「ああ失敗」したみたいになって欲しくないということ祈っております。

私としてはどの学部であっても、高知県を救うためには、高知県と組んで、やはり地域イノベーション人材になっていただきたい。しかし、産業を誘致するためには高い専門性が必要である。文系にとってもです。しかし文系だけで創出するのは正直難しい。ですので、まず機械や電気のガチガチの工学をきちっと持っている高知工科大とは組まざるを得ない。そして、鳥取県の半分しかない製造業という状況からどう回復していくか。で、今、私の脳みその中では製造業しか正解が無い、という情けない状況ですが、皆さまのお知恵で、農学だったり理学だったり、あるいは文学や地域創生の知恵を出して、私以上の答えをぜひ出していただきたいです。私は所詮高知の人間ではないジャーナリストですから、残念ながら今後またなかなか来ません。遠い名古屋から皆さんの活動を何年も見

て、産業創出に繋がるだけのことを各学部がなさり、目に見えて高知県が良くなったという姿を絶対に見たいと思っています。

そして、高知大学に入れない、県外流出してしまう二番手高校のプライドを満たす出口を皆さまが創出して欲しいのです。そうすると都市部の大学に出て行ってしまった学生たちが、大卒で高知に帰って来て仕事があるっていう状態を作る。地域で何かやろうっていう時に、この二番手の高校を卒業した人たちが、おそらくごっそり抜けているはず。地域の高卒で頑張っている人と、県庁で働いているエリートだけが高知に残っている。

この出て行ってしまう二番手の子が戻って来られる環境を高知大学に作って欲しいですね。正直、高知県のためには、高知学大か高知県立大学か高知工科大学がそれを作るしかないです。そして、放っておくと安定路線ばかりに行ってしまう文系エリートのみなさん、公務員と教員と銀行が偉いのだっていう人に対して、もちろん文系に限らず理学部もそうですが、「いや、革新的なビジネスをやる人材、イノベーションを起こせる文系人材をきちんと高知から出しますよ」ということを前提に、そのための教育と研究と、地域貢献、地域協働が求められています。なので、先生方はご自分の研究がどう社会に貢献しているのかということ少し見つけ直して欲しいです。

これは割と教育学部がしんどいかなと思っています。先生を作る、言わば専門学校みたいに考えていると、何か研究をして世の中を変えるという他学部と差がついてしまう恐れがあります。では、具体的にどうしていった方がいいのだろうということで、一応私が最後の希望と呼んでいるのが高大連携です。

高大連携はどこでもやっているという話もあるのですが、従来から、地域と大学の連携は盛んに行なわれています。高校生と地域との連携も割と行われつつある。そして、高大連携も行われつつある。ところが、高校と大学と地域が、トライアングルで連携して何かをやっている事例はゼロです。全国で、私は一つも見ることがない。4月から静岡県で始まります。静岡県

立大学と牧之原市と榛原高校ですね。なんですけど、何せまだ始まってない。

今までわれわれは、高校と地域の連携と、高大連携と、大学と地域の連携はやっていましたが、皆さまざま大学を主人公にしてみれば、高校の要素がまだ少ないと考えています。例えば、何らかの形でこの愛する高知のために役に立ってことを踏まえて関西に出て行って戻ってくる、とか、高校生生の時にひたすら勉強していい大学入れればいいやではなくて、自分が住んでいる高知という地域が疲弊していく中で、一生の中でどうやってそういうものに前向きに携わっていくのか、ということ地域連携が熱心な高知大学から高知県内の多くの高校生に、特に高知県を出て行ってしまいうような高校生に、きちんと伝えられるような連携ができないかな、と思います。もちろんすでに行われているとは重々承知なのですが。

地域連携をさらに推し進めていただいて県外流出を止める。ただし、県外流出を止めたり、Uターンを増やすためには根本的には産業が必要だと言われてます。これは岐阜県立可児高校という、1学年、156人も国公立に行くようなトップ高校の事例なのですが、このトップ進学校の学生が、みんな出て行っちゃうので、町自体に残らないという中で、地域課題解決型キャリア教育といいまして、議会で喋ったり色々連携して、進学校だから出ていけばいいや、東大何名、ではなく、自分達が住んでいる岐阜県立可児市ってものを、地域の良さっていうのを見つめようよ、という取り組みをしています。今までの高校っていうのは、受験のために生徒を地域から隔離し、地域課題に対する当事者意識も無い、高校は若者を都会に流出させる装置だったけれど、これからは地域に帰ろう、地域の課題に対する当事者意識を積極的に育成しよう、という取り組みです。しかも学力が高かったり、能動的に学ぶ人が多い進学校こそ、地域課題を解決する人材を作るべきなのです。ですので、すでにみなさんが取り組んでいらっしゃる内容をうまく出て行っちゃう高校に移植できないかなと思います。この私が成功例として取り上げた岐阜県立可児高校ですが、やはり決定的に欠けた物が

ある。大学と組んでないのです。高大連携っていうと、N大学の教授が来て喋って「みんなN大目指せ」みたいになってしまっており地域は絡んでないんです。高校と地域だけでやっているのです。これもまだ物足りない。大学が必要なのです。

そんな訳で、一次産業の競争力が低下する中で、高知県にも当てはまるのですが、六次産業化しないと生き残れない。雇用創出が困難なのは、この岐阜県立可児市も高知県も同じです。ならば、自分の力で起業、創業する力が必要です。そのためには大学に進学する必要があります。だから一定数高知県から出て行ってしまうのは仕方がない。でも大学で、広い視野と高い専門性と抱負な人脈を作って、地元に戻って来て、起業、創業して欲しいです。そうすれば、まあ十分な実力を持って、都会から高知へ帰って来てくれて、みごと地域再生ができる。高知大学だけでは限界があるので、県全体、流出してしまう高校生も含めた育成というものにぜひ携わっていただきたい。しかし、この岐阜県立可児高校の事例は、今、成功事例として、文科省経由でジャンジャンPRされていますが、どうしても引っかかるのは可児市という町自体には産業がありません。これは致命的です。企業の工場がないのですね。なぜならば、可児市というのは、名古屋から電車で1時間というベッドタウンであって、単に寝だけの町なのです。可児市の人口は7万人くらいなんですけど、割と九州出身者が多くて、高度成長期に九州から名古屋から働きに来て、そのまま居付いた。そんな彼らには、別に愛着はないのですね。大阪の千里ニュータウンみたいなものです。そういう町で、この町でなければいけない産業というものが無いのです。特に工業が。だから、ここだけの話、これは長い目で見たら成功しないと私は思っています。結局は、可児市に賢い若者は帰って来てくれない。もう少し何かが必要なのです。これも始まったばかりで、これから全国の高校に広めようという段階なので、何とも言えません。だから本当にこれが正解だっていうのがあれば良かったのですが、これが地域を救う正解だなんてものがあれば、ふるさと創生の頃に解決しているはずな

ので、非常に私も悩ましいです。

とはいえ、ただ単に都会のいい大学に出て行って終わりではなく、進学校の子たちが自分の町に高い関心を持つという点で、まず、一歩踏み出しているのかな。私も高校生の頃に市議会なんて全然興味ないですからね。なので、この岐阜県可児市の場合は、夏休みにNPOがプロジェクトをやっています、30科目位の授業を用意しています。これは、地域のNPO団体の人と話そうとか、何か大学に行った先輩の話を聞こうとか、市役所の人と喋ろう、みたいなものなのですが、こういうプログラムを30個ぐらい用意して、1個1個の定員を減らしています。例えば、市長さんが来て300人にワーって喋っても1人1人の心に残らないのです。ですので、開催する日時も違って、これは8月1日、これは8月30日だったりします。地域で何かやっている人の話を聞きに行くというのを必修にして、二つ行ってもいいけれど、夏休み中に一つだけは行って来いと。で、その結果を踏まえて、地域の中で、高校生である自分がどういう立ち位置でやっているかと、自主的に考えるきっかけを提供しています。でも、これも今、大学が全然入り込んでないのです。

やはり、高校、大学、地域のトライアングルになっていないのです。大学の皆さんに関しては、やはり高校がまだ足りない。だからこの可児市の事例も成功とまでは言えない。私も苦しいのですが、今回講演をするにあたり、何とか最先端の事例を探して来て、現状、ここまで来ました。今日の話自体は高知に特化した話ではなく、今、私が全国を回っている中で、地域おこしというのを高校生も大学生も地域もみんな頑張っているのですが、過去の失敗から学ぶ、まさにふるさと創生でもゆとり教育でもそうなのですが、今度こそ、同じ失敗をしないために、もし少しでも皆さんのお役に立てることがあれば、幸いです。

以上で講演は終えて、後ほど色々ご質問をいただきたいと思います。以上です。ありがとうございました。

すべての学部が地域の役に立つために



2016年1月20日
一般社団法人 大学イノベーション研究所
所長 山内太地

1



山内太地

やまうち・たいじ

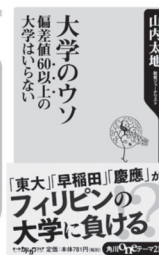
一般社団法人 大学イノベーション研究所 所長

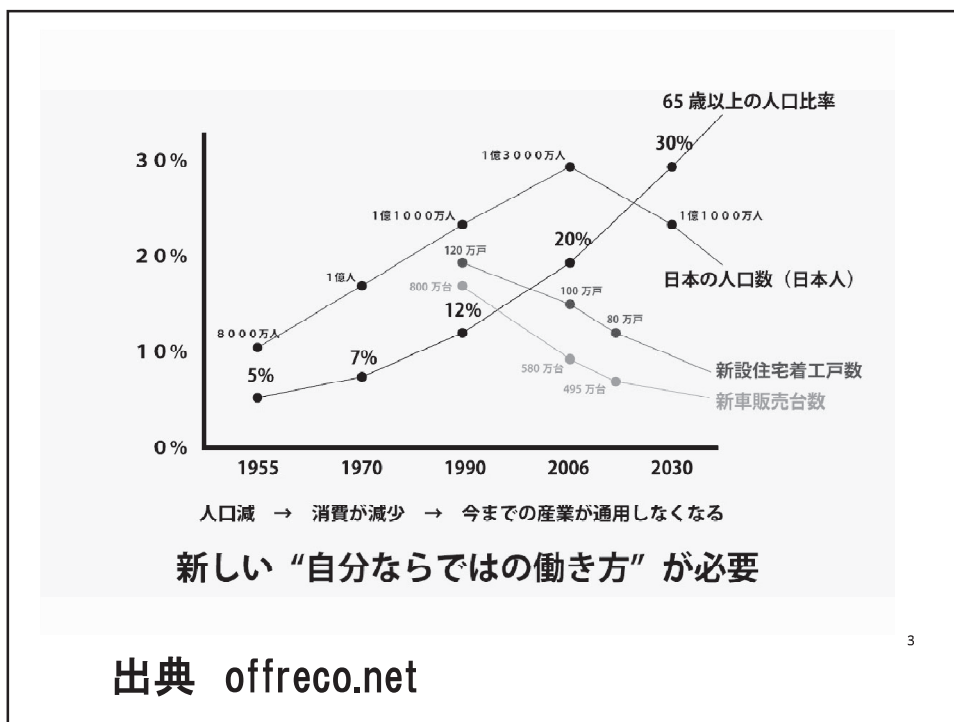
1978年岐阜県中津川市生まれ。

東洋大学社会学部社会学科卒。

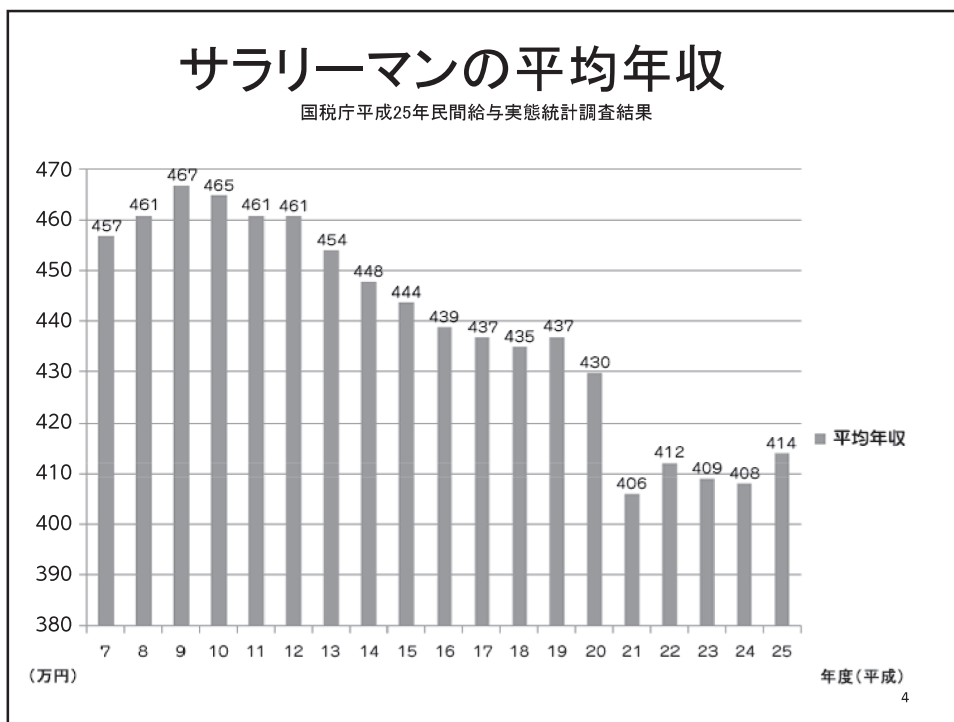
(島根大学法文学部、都留文科大学文学部合格)

温泉ホテル、出版社2社勤務を経て独立。47都道府県14か国及び3地域の884大学1174キャンパスを見学。日本国内の4年制大学786校をすべて訪問(2015年度現在)。





3



4

人を使う人

(経営者)

VS

人に使われる人

(労働者)

5

自分の頭で考え、行動できるかどうかで、
社会で重要な仕事に就けるかどうかが決まる
(高校生編)



医療現場に携わる現役病理医や看護師が、
生徒たちに講義やワークショップをする
広尾学園高校(東京都・私立)
<http://resemom.jp/article/2015/08/07/26214.html>

- ①新聞を読んで自分の意見を持ち、
文章を書く
- ②どうすれば試合で勝てるかを
考える
- ③どうやったら勉強が楽しくなるか
工夫する
- ④将来何になるか→
これから世界はどうなるか?
- ⑤親や先生や友達と
対話・協力する

能動的な学習習慣をつける

6

自分の頭で考え、行動できるかどうかで、
社会で重要な仕事に就けるかどうかが決まる
(大学生編)



語学力と国際性はもちろん、
①自分で研究課題を見つけ
②情報を集めて論文を書き
③発表する。

アクティブ・ラーニング
問題解決型学習
熱心なゼミ・研究室の指導などの
「質の高い教育」が受けられる大学を選ぶ。

出典 <http://www.als.co.jp/>

チームワーク、リーダーシップ、問題発見・解決能力などの

社会で必要とされる力をつける
挫折、苦勞、失敗、トライ&エラー たたとえば恋愛♡ 7

高知大学 地域協働学部

学部・学科 地域協働学部・地域協働学科
学位 学士(地域協働学)
入学定員 60名

■ 養成する人材像と進路先 「地域協働型産業人材」

- ・6次産業化人 6次産業(生産(1次産業)、加工(2次産業)、流通販売(3次産業)を一体化させた産業形態)による新ビジネスを自ら起業して活躍する人材 起業家、農林商工業の後継者など
- ・産業の地域協働リーダー 異業種間等の協働を通じた新規事業を創出する人材 地域産業振興を担う企業、銀行、JAなど
- ・行政の地域協働リーダー 産官及び官民の協働をコーディネートして行政施策を推進する人材 公務員、大学職員など
- ・生活・文化の地域協働リーダー 住民と一緒に地域の暮らしと文化を支える担い手となる人材 NPO、公益法人、マスコミなど

コーディネーターにはなれるが、生産者、クリエイターになれるかどうかがかぎ

12

高知大学 地域協働学部

■ 特徴的なカリキュラム

3つの学びによる"成長サイクル"

・講義科目、演習科目、実習科目で構成されるカリキュラムにより、「大学での学び」「地域での学び」「地域への貢献」のサイクルを実践します。

・地域の未来を拓くリーダーに欠かせない「生きた技能・知識・考え方」を育むための「知識と実践の統合」「こころざしの育成」「学びの意欲向上」を図ります。

多彩な実習授業を実施

・1年次から4年次まで、県内各地でフィールドワークを実施します。

・地域における課題解決の現場を直接体験させるため、多彩な実習科目を配置し、地域への愛着や誇りを育てる教育を実践します。

地域コミュニティの再生、商店街の活性化、地場産品を生かした商品開発など学生自らが企画を練り上げ、地域住民と協働しながら、組織・人を動かす力を身につけます。

少数精鋭型カリキュラム

学年60名の学生に対し、20名の専任教員を配置します。

経済学・経営学分野、社会学分野、教育学分野、農学分野、環境分野、美術分野、スポーツ分野などの多彩な分野から、少数精鋭のリーダー養成カリキュラムを全力でサポートします。

13

高知県の現状

1人あたり所得 全国最低の201万7000円 (2012年)

平均年収 47都道府県中40位の366万円

(トップの東京都は580万円、その差214万円)

最低賃金 全国最下位の677円 (2014年10月)

鳥取、長崎、熊本、大分、宮崎、沖縄と同じ

2015年版「幸せな県ランキング」46位

<http://www.ikedahayato.com/20151228/44207858.html>

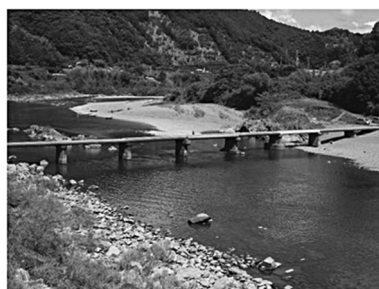
製造品出荷額等、全国46位

45位鳥取県の半分

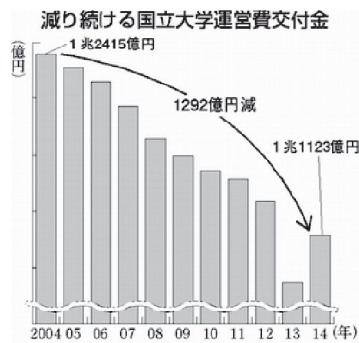
新規高卒者の就職者のうち

半数以上が県外就職

子どもを産めない最大の理由は
経済的理由である



地方交付税交付金と財政力指数



普通交付税不交付団体 59市町村のうち愛知県14
碧南市 刈谷市 豊田市 安城市 小牧市 東海市
大府市 日進市 みよし市 長久手市 豊山町 大口町
飛島村 幸田町
中四国 ゼロ

財政力指数(1.0以上が不交付)

愛知県飛島村	2.13	200社の企業から年間33億の税収
山梨県忍野村	1.11	工作機械用CNC装置で世界首位 ファナック
高知県高知市	0.56	
岩手県紫波町	0.40	オガールプロジェクト
徳島県神山町	0.22	IT関係者が移住
高知県本山町	0.15	イケダハヤトさんが移住
徳島県上勝町	0.12	葉っぱビジネス
高知県梶原町	0.09	
島根県海士町	0.09	Iターン移住

財政の自立

自治体ごとに法人税率を変えるべき

17

地方大学 生き残りのキーワード 「二番手高校」の生徒の獲得

一番手高校

東大合格〇名などの、県内トップ高校
国公立大学を目指すのが当たり前

二番手高校

国公立大学合格者数30~100名
進学校としてのプライドは高い

三番手高校

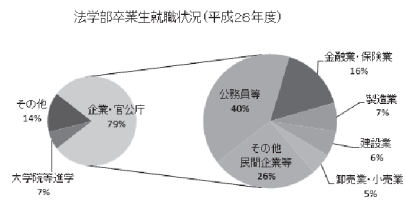
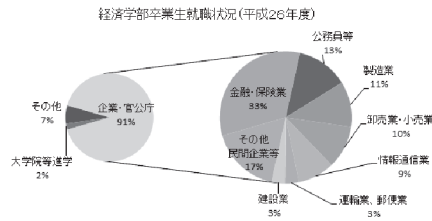
大学進学=推薦入学
短大、専門学校、就職など多様な進路

スポーツに強い私立高校の場合、1~3の要素が全部ある。

18

二番手高校の行きたい進路

- 地方公務員
- 教員
- 地元金融機関
- 製造業
- 地元エリート企業
- ↓
- すなわち
- 地域エリート



香川大学の就職先

19

3種類の未来

<http://www.mynewsjapan.com/reports/2121>

①親が考える「勝ち組」

文系 地方公務員、教員、銀行、製造業など地元優良企業
理系 メーカーの研究開発・技術開発・研究職、公務員・教員
↑二番手高校↓

②ほとんどの私大卒

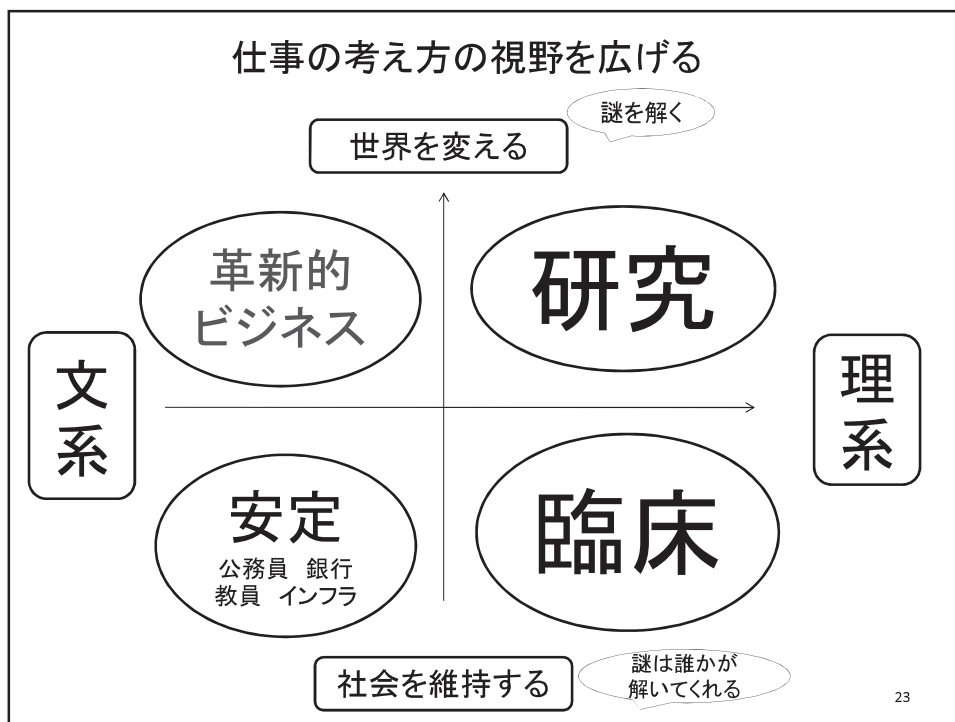
7割が営業(接客)。大半が卸小売・サービス業。
↑三番手高校↓

③高卒層 (マイルドヤンキー)

商業・工業・専門学校を卒業し、小規模な家業を継ぐか、自動車整備士や美容師などの専門職。

県外流出

20

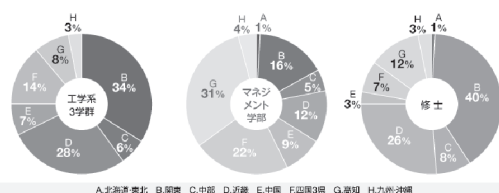


すべての学部が地域の役に立つために

- ①産業創出
- ②人口流入
- ③財政健全化

(自治体も大学も)

教員の皆様は
「税金をもらって、学生を教える」から、「自分で外部資金を獲得し、資金提供先に利益をもたらす」研究が求められる。(賛否あり)



高知工科大学の卒業生の
34%が首都圏、28%が近畿圏に就職。
高知県内わずか8%。

ただし、工学系学群の話であり、
マネジメント学部は31%が高知県内。

高知大学の各学部

- ①産業創出
 - ②人口流入
 - ③財政健全化
- 製造業にどう絡むか

・人文社会科学部(平成28年4月開設)

人文科学コース 哲学・思想プログラム 心理学プログラム 歴史・地理学プログラム
日本語・日本文学プログラム 英米文学プログラム

国際社会コース 言語・コミュニケーションプログラム 総合文化プログラム グローバル社会プログラム
ヨーロッパ地域プログラム 南北アメリカ地域プログラム アジア・オセアニア地域プログラム

社会科学コース 経済理論プログラム 経済政策プログラム 経営・会計プログラム 法律・政治プログラム

・教育学部 学校教育教員養成課程

・理工学部(改組計画中)

数学物理情報学科、生物圏科学科、応用化学・生命理工学科、地球環境防災学科

・医学部 医学科 看護学科

・農林海洋科学部(平成28年4月開設)

農林資源環境科学科、農芸化学科、海洋資源科学科

・地域協働学部 地域協働学科

・土佐さきがけプログラム

グリーンサイエンス人材育成コース 国際人材育成コース

生命・環境人材育成コース スポーツ人材育成コース

25

つまり 地域イノベーション人材

なのですが、

高い専門性(理・工・農・医)が必要
(これらと組まないと文系だけでは創出困難)

+

二番手高校のプライドを満たす出口である
安定を求める従来型エリートの枠を超える
教育・研究・地域貢献が求められる
「自分の研究は、どう社会に貢献しているのか」₂₆

最後の希望「高大連携」

岐阜県立可児高校 地域課題解決型キャリア教育



・今までの高校

受験のため、生徒を地域から隔離 地域課題に対する当事者意識 育成不全
高校は若者を都会へ流出させる装置

・これからの高校

地域に回帰 地域課題に対する当事者意識 積極育成
進学校こそ地域課題の解決に寄与する人材の育成機関
進学対策だけでなく、地域課題の発見・解決をする学習活動に参加
地域再生に貢献

・時代の変化と地方の活路

一次産業の競争力低下、六次産業化(農産+加工+販売)しないと生き残れない。
雇用創出が困難、自力で起業・創業する必要がある。
若者に高い実力が必要。進学する必要あり。

・大学では地元で生きる実力の育成の場

「広い視野」「高い専門性」「豊富な人脈」
いちど故郷を離れ、大学などで高い専門性を身に付け、人脈をつくる。
そのうえで地元に戻郷して起業・創業

卒業後、地元に戻郷、実力も十分

地域再生 しかし！

27

ご清聴ありがとうございました

夏の!!
OPEN ENRICH
プロジェクト
2015

エンリッチプロジェクトとは
「まちをよきものに」と感じる大
志に燃ゆる心、情を燃して、
向きあふるプロジェクトです。

縁起とは
岐阜県可児地域の(小・中・高)学校と地域をつなぐコディ
ネットネットワークです。
今年度より可児高校、市民会・NPO、市民有志と連
携して、「地域課題解決型キャリア教育」運営「エンリッチプ
ロジェクト」を推進します。生徒一人ひとりの人生がより豊かにな
り私達が住む地域が元気になる事を目指しています。

Twitter
詳しくは
こちらへ

<イベント情報> <トークジャンル> 地域で頑張ってる人、地域で頑張ってる企業

日付/地区
トーク番号 「トークテーマ」

写真
プロフィール
講演紹介
etc...

7月22日(金) 14:00-14:30	7月23日(土) 14:00-14:30	7月24日(日) 14:00-14:30	7月25日(月) 14:00-14:30	7月26日(火) 14:00-14:30	7月27日(水) 14:00-14:30	7月28日(木) 14:00-14:30	7月29日(金) 14:00-14:30	7月30日(土) 14:00-14:30	7月31日(日) 14:00-14:30
101	102	103	104	105	106	107	108	109	110

申込はコチラ

主催 協賛 後援: 可児市 可児市インテラーティブ未来局長 可児市教育委員会 可児市生涯学習課

8